

7 / 29
(月)

祈りを欠いた働き

マルコによる福音書九章14〜29節

イエスは、「この種のもものは、祈りによらなければ追いつき出さずとはできないのだ」と言われた。(29)

イエスと三人の弟子たちが山から下りてきたとき、悪霊にとりつかれて苦しむ息子を助けてほしいと願う父親の求めに応えることが出来ず、うろたえている弟子たちがいました。イエスは弟子たちの不信仰を深く嘆かれました。弟子たちに霊の力が足りなかったというのではなく、彼らの信仰が足りないということです。ただイエスの御名を唱えていけばいいのではありません。そこに神に対する全幅の信頼がなければ、イエスの御名は空しく響くだけです。その不信仰の問題の解決は、祈りにこそあると主は言われます。信仰の貧しさを克服するものは祈りです。祈りを欠いた愛のわざ、祈りを欠いた伝道が進められている現代の教会に、「この種のもものは、祈りによらなければ」と主は語っておられます。自分たちの力に頼るのではなく、祈りを通して主のみわざに期待しようではありませんか。